小特集

鶴丸城 御楼門 GOROUMON の建設に向けて

［御楼門（尚古集成館蔵）］

［御楼門建設予定地］

鹿児島城（鶴丸城）は、慶長6年（1601年）に島津家第18代当主家久が建設に着手した本丸の大手門（正門）である御楼門がありましたが、明治6年（1873年）の火災で本丸などとともに消失し、現在に至っています。

現在、鶴丸城跡（現鹿児島県歴史資料センター黎明館（鹿児島市城山町））において計画されている鶴丸城御楼門および御角櫓の建設について、取り組みなどを紹介します。

●御楼門とは

御楼門は、鶴丸城の大手門（正門）で、高さ約18メートル、幅約20メートルの堂々たる武家門でした。特に主柱の幅は3尺（約0・9メートル）もある大きな門であったとされています。

火災で消失する前の明治初期に撮影された写真や、残されていた礎石の痕跡から、主柱や脇柱などの大きさが判明しており、類似例や文献資料などを参考に建設することとしています。

●建設の意義

御楼門の建設についてはさまざまな意見がありましたが、平成25年4月に鹿児島経済同友会を中心として、経済界や個人による募金などを主な財源とする復元計画が提言され、その後発足した「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が、企業や個人に対して寄附金の募集を行った結果、目標額を上回る寄附が集まりました。

この取り組みは、民間が主導する新たな官民連携の一つのモデルであり、また、歴史や文化、「なまこ壁」や「入母屋（いりもや）づくり」といった建築技術の継承のほか、新たな観光拠点づくりとしても意義あるものです。

また、御楼門が鹿児島の新しいシンボルとなり、文化施設などが集中する鹿児島市城山町、山下町一帯の「かごしま文化ゾーン」が充実することで、鹿児島中央駅から天文館、かごしま文化ゾーンへの人の流れが創出され、経済が活性化することも期待されます。

●建設に向けて

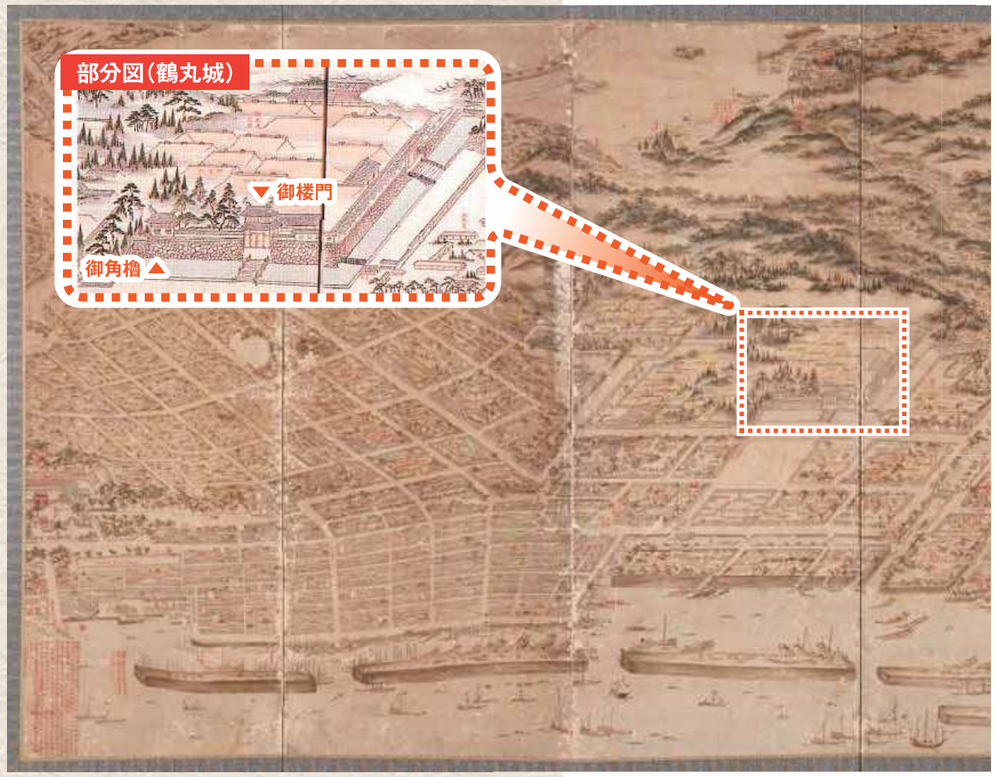
平成27年2月、県と「鶴丸城御楼門復元実行委員会」は「鶴丸城御楼門建設協議会」を設立し、御楼門の建設に取り組むこととしました。同協議会では、平成32年3月の完成に向け、現在、必要な作業を進めているところです。

［御角櫓（尚古集成館蔵）］

また、御楼門と連なり城郭を構成する重要な建物である「御角櫓」についても、県において、建設することとしています。御角櫓は、本丸の南東角に位置し、城の防御とともに美観や威厳を保つ役目を持つ施設で、物品収蔵施設としての用途もあったものとされています。尚古集成館所蔵の奥日記の一つである「表方御右筆間日記（おもてかたごゆうひつのまにっき）」には、篤姫（あつひめ）が御角櫓から祇園祭を見物したことが記載されています。

●岐阜県の協力

宝暦治水工事の偉業を縁に鹿児島県と姉妹県盟約を締結している岐阜県では、御楼門建設に岐阜県産木材を提供することで鹿児島県との友好の証を示し、両県の絆を深めようと、平成27年12月7日、「鹿児島県との友好の証プロジェクト実行委員会」を設立。同月17日には、提供木である岐阜県産ケヤキの伐採式が実施されました。



［天保年間鹿児島城下絵図（鹿児島市立美術館蔵）］

募集しています！

◎御楼門などの資料を探しています

現在、明治初期に撮影された写真しか確認されていないため、県では、鶴丸城御楼門や御角櫓の写真など、資料を集めています。写真などの資料をお持ちの方はご連絡ください。

◎大径木についての情報をお寄せください

御楼門の建設には、直径1メートルを超えるような丸太の大径木が約10本必要です。協議会では、平成27年11月に岐阜市で開催された「全国銘木展示大会」において、御楼門の鏡柱などの候補となる「ケヤキ」（直径110センチメートル・長さ約10メートル）を一本調達しました。建設に必要な大径木について、所有者や木材関係業者の方々からの情報を広く募集しています。

※募集内容など詳しくは、県ホームページをご覧ください。

県ホームページ＞教育・文化・交流＞文化・芸術＞鶴丸城御楼門・御角櫓

［問い合わせ先］
県庁生活・文化課　☎099-286-2534